年間研修計画の工夫

高等学校

年間研修計画に特別支援教育に関する研修を位置付けた取組

活用した資料
校内研修プログラム　Ｐ４
―校内研修プログラムの年間の活用例―

○　実践の概要

本校では、年間を通じて月に１～２回、特別支援教育に関する研修及び特別支援教育だよりの発行を行うなど、教職員への理解啓発を図りました。

研修に当たっては、特別支援教育コーディネーターが主となり、特別支援教育校内委員会やパートナー・ティーチャー派遣事業を活用するなどして、研修の充実を図りました。

月	内　　容
４月 ・ ５月	・特別支援教育校内委員会における特別な教育的支援が必要な生徒の実態把握 ・中高一貫推進委員会特別支援部会における特別な教育的支援が必要な生徒についての引継ぎ
６月	・特別支援教育校内委員会における教材教具の工夫・改善
７月	・パートナー・ティーチャーによる指導助言
８月	・特別支援教育に関する先進地域の視察報告
９月	・特別支援教育校内委員会におけるパートナー・ティーチャーからの指導助言を参考にした指導や支援の検討

【特別支援教育に関する研修の年間計画】

○　学校全体で共通理解を図った指導や支援の工夫
①モニターやスクリーンの活用：本時の流れ・キーワード等の表示による視覚支援
②フラッシュカード・単語カルタの活用：単語や短文表示による記憶の支援
③なぞる教材・目盛りが見やすい定規・マス目ノートの活用：視覚的手掛かりによる支援
④音楽・音声教材の活用：聴覚を活用した支援

○　実践の成果

本取組では、特別支援教育の研修を年間研修計画に位置付けたことにより、計画的な研修内容の充実を図ることができました。

また、特別支援教育校内委員会を通じて組織的な取組を進めたことで、生徒の実態に応じた教材・教具の工夫等、適切な指導や支援の内容、方法について、学校全体で共通理解を図ることができました。